

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2020年4月25日 VOL.43 第293号 定価550円
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 郵便振替:01250-2-40709 口座名:特定非営利活動法人アムダ

2020年
春号

春

救える命があればどこまでも

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第24回

株式会社イリエ代表取締役 入江 鈴夫様

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<https://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人AMDA 社会開発機構
<https://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人AMDA 国際医療情報センター
<https://www.amdamedicalcenter.com/>
 AMDA 兵庫
<http://amda-hyogo.com/>

AMDA 2009年から毎年、ご寄付を頂き、ありがとうございます。AMDAを選んで頂いた理由をお聞かせください。

入江社長 私の生い立ちから説明すれば、より分かりやすいと思います。私の曾祖父は黒住教の神主。父は私が15歳の時、亡くなりましたが、母は立正佼成会の信者で、信仰心が篤い環境で育ちました。私の人生の恩師で、立正佼成会の初代津山教会長を務められた池田貢一郎先生がAMDAの菅波茂理事長と親しい間柄であり、AMDAが世界中で医療ボランティアとして人命救助をされている素晴らしい団体とお聞きし、少しでも役立つことをしたいと寄付対象に選ばせていただきました。

AMDA 貴社の社是は「動機 善なり」ですが、その内容をもう少し詳しく説明してもらえますか。

入江社長 京セラで当時、社長をされていた稲盛和夫さんの著書の中に出てくる言葉で、私利私欲で行動しては“天”が許さない、私心をなくせという教えです。

AMDA その社是の通り、亡くなられたお客様の供養祭を1997年から毎年、実施されています。ユニセフの「アフリカへ毛布を送る運動」にも約20年間にわたって協力、地域のクリーン作戦にも従業員が総出で年3回、続けられています。ところで、貴社は1980年に設立し、今年



40周年を迎えられました。記念式典で入江社長は従業員にどんな訓示をされましたか。

入江社長 一般には創業して30年間で99.8%が廃業に追い込まれているというデータがあります。幸い、弊社がその壁を乗り越えられたのは、お客様はもとより地域の方々、社員、その家族、OBなど大勢の方のお陰です。感謝の気持ちを大切にしようと呼び掛けました。

AMDA 貴社は従業員の勉強会「社内木鶏会」を毎月1回、開催されています。どのような内容でしょうか。

入江社長 地産グループのオーナーが発行され、41年間続いている「到

知」という月刊誌があります。高名な財界人や宗教家、評論家らが寄稿していますが、その著書を従業員にも読んでいただいております。その中から私がテーマを決め、3人1組のグループに分かれ、チームリーダーを決めて感想文を発表。議論し合うのですが、その際にお互いの良い点を指摘し合います。長所を見る習慣を養うことで社内の活性化を図るのが狙いです。

AMDA 貴社の店舗は津山をはじめ、真庭、総社の3店。福山にフライチャイズ店を1店設けられています。ギフト産業の今後の進むべき道をどのようにお考えでしょうか。

入江社長 少子高齢化で売り上げは右肩下がりの厳しい状況です。しかし、このような時代だからこそ、人と人の心の懸け橋となるギフト産業が“贈答文化”を通して大きな役割を果たす時です。これから3年の間にリーダーとして大きな決断をしなければならぬと考えています。



店舗の様子

(インタビュー内の敬称は省略させていただきました)

AMDA 中学高校生会報告

報告会概要について

AMDA 中学高校生会リーダー 学芸館高校 2年 井口 海

2020年1月26日に2019年度に行った活動の報告会を岡山国際交流センターで行いました。報告した内容については以下のとおりです。

- ・インドネシアを8月に2人のメンバーが訪問し、現地の学生たちとの交流や被災地の視察、現地の医療現場で診療の手伝いをした。
- ・8月31日から1泊2日で、メンバー13人が高知県黒潮町を訪問し現地の中学生、高校生と交流会を行い、2日目は避難訓練に参加した。
- ・11月24日、宮城県南三陸町で行われる復興グルメF-1大会にメンバー7人が参加。F-1大会の準備や当日の販売、片付けの手伝いなどを行った。また、気仙沼も訪問し震災当時の事、復興の様子を学んだ。
- ・自分たちが行っている平和の取り組みについて「スリランカ平和構築プログラム」を紹介。



また、身近に起こった西日本豪雨災害の経験を活かし、若者ができる防災についてメンバーで考えていること等、4つの項



発表している井口リーダー（右）

目に分け担当したメンバーが発表しました。報告会の最後にAMDA高校生会OGの守都未来さんから、ご自分の体験やJICAの活動を通して自分たちが今後の活動で参考になること、大切なことをお話いただきました。

AMDA 中学高校生会報告会を経験して

AMDA 中学高校生会副リーダー 岡山朝日高校 2年 政木 悠布

AMDA 中学高校生会のおかげで大きく成長したと実感できた報告会でした。

インドネシア研修では、AMDAの医療支援を知り、また実際に診療の手伝いを通して、現地の方々と向き合うことができました。中でも14歳で母親になった女性の、子どもを守り生きる姿に圧倒されました。そしてインドネシアの医療が改善するのに貢献したいと強く思いました。また、2019年7月に起こった災害跡地で話しを伺って防災意識の違いを感じ、日本も他国に学ぶことが多くあると実感しました。インドネシアとの医療技術や文化、考え方など違いを感じ、国際的な視点から平和を考えることができました。

黒潮町では、同年代の学生がこんなにも災害について考えているのかと驚き、刺激を受けました。学生やお年寄りとの触れ合いや防災訓練、防災食づくり、事例発表

を通して、周りの人とのつながりの重要性を感じました。

東北では、震災を乗り越えよう

と努力する方々の思いに触れ、完全には復興していない現状を共有しました。訪れなければ、震災を過去のことでと捉えていたことでしょう。伝承館では自然の猛威とその残酷な風景を目にし、それでも前を向いて生きる方々の声を耳にしました。その思いを伝え、残していきたいと思います。

周りの人がいてこそ自分がいるということ。報告会を通して心に刻んだ思いを忘れず、今後のAMDAの活動にも、そのほかのことにも、全力で邁進していきたいです。



発表している政木副リーダー（左）

信頼で世界をつなぐ。AMDA 中高生会での活動を、その第一歩に

岡山県 JICA デスク 国際協力推進員 守都 未来

今年で設立25年目を迎えたAMDA中学高校生会の活動報告会に、かつてメンバーだったご縁でお声がけいただき、本当にありがとうございました。中高生の皆さんのまっすぐな言葉に、目頭が熱くなったり、ハッとさせられたり、私自身にとっても自分の活動を振り返って考える貴重な機会となりました。「信頼のパートナーシップ」。そんな関係構築に向けて、日本内外を問わずまっすぐに向き合っていくとすると中高生会のみなさんに、多くの刺激と励ましをいただきました。様々な課題が山積する

世界の中で、問い、探し、もがき、葛藤しながらも行動していく中高生会の皆さんのその姿勢



講演中の守都未来さん

そ、明日の希望となっていくことを感じました。世界のどこに暮らしていても、「明日を生きるのが楽しみになる」そんな社会を共に創っていけたら嬉しいです。中高生会の皆さんの、今後のご活躍に期待しています。

第25回日本災害医学会総会・学術集会以発表

AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム運営委員会副委員長 鈴記 好博

2020年2月20日から3日間開催された第25回日本災害医学会総会・学術集會に参加。AMDAとしての発表も2題ありました。

一つは、湘南おおふなクリニックの長谷川太郎先生による「過密避難所における段ボールベッド緊急導入の経験（令和元年台風19号避難所支援チームからの視点）のポスター発表です。

活動拠点であった豊野西小学校避難所へ、240台超の段ボールベッドを一気に導入した際の方法、

問題点、課題について詳細な報告がなされています。

そして私はパネルディスカッション「人道支援チームの連携と協働」にてパネリストの1人として「災害時におけるNGOと他団体との連携」という演題で、まずは来る南海トラフ対応として、現地の行政、医療機関そして住民との連携を深めていること、また総社市や赤磐市



長谷川太郎先生による
ポスター発表



講演する鈴記医師

そして被災地医師会や医療機関など、現場で共に活動する方々との平時からの連携について、そして現場で会い、同じ目的で活動する他の人道支援チームとの連携について話をいたしました。また被災現場での連携の課題として、医療ニーズの縮小評価、支援団体の締め出しなど、管理優先の「支援の壁」を作らないようにする必要性についても指摘させていただきました。

発表後は、他の演者の先生方と一緒に登壇し、会場の皆さんと共に多くの議論ができました。

今後とも多くの場でAMDAの活動を発信していけたらと思っております。

メルカド氏（フィリピン大統領府和平プロセス担当大統領顧問室事務局長当時）来日

～総社市と広島大学で講演～

フィリピン現地協力者であるグロリア・メルカド氏が2019年12月14日から7日間、来日しました。

AMDAは同氏協力の下、2013年より様々な緊急支援活動を実施しています。同氏は2016年から2018年までフィリピン大統領府長官筆頭秘書官として、2019年からは和平プロセス担当大統領顧問室事務局長として、フィリピン南部ミンダナオ島における和平構築に関わってきました。

2019年12月16日、総社市役所で市職員と市民を対象に「平和への願い」と題して、翌17日には、広島大学のIDEC(International Development and Cooperation)セミナーにおいて、大学関係者と学生合わせて約30人に対して「モロ民族の苦悩とバンサモロ和平構築」について、メルカド氏が講演。話の中で、ミンダナオ島およびバンサモロ和平構築における歴史、フィリピン政府の開発・安全保障に関する枠組みと和平プロセス包括計画について触れました。政府による具体的な取り組みの一例として、「正常化」を挙げ、身分証明書の発行、住居や就職機会の提供などにより、戦闘員が一般人の生活に戻るよう支援していることを紹介しました。

ミンダナオ島は、第二次世界大戦を含む多くの戦闘を経験している島であり、政府とモロイスラム解放戦線が和平に向けた話し合いを続けている、という漠然としたイメージしかありませんでした。講演を聞いて、和平にむけた多面からの取り組みを知る機会になると同時に、戦友を亡くしている軍人、戦闘員たちが互いを認め、信頼を構築していくには長い時間を要するものの、不可能ではないことを確信しました。その証として昨年、バンサモロ暫定自治政府が発足しました。これは、政府側と自治政府側の互いの信頼なくしては成し得なかったと思います。ただし、そこにたどり着くには、多大な努力、紆余曲折があることをミンダナオの歴史が教えてくれました。



講演するメルカド氏

(フィリピン担当 岩尾 智子)

噴火、寒波、新型肺炎に緊急支援

フィリピン・タール火山噴火

2020年1月12日、フィリピン中部にあるタール火山が噴火し、フィリピン政府は同日、火山から半径14kmの地域に避難指示を発令しました。1月21日のフィリピン政府の発表では、合計68,439世帯が被災し、38,906世帯が避難生活を送るなど、非常に多くの方々が避難所での生活を強いられました。

AMDAは、調整員1人を1月16日～21日の期間で現地に派遣し、AMDAフィリピン支部を始め、医学生や地元企業、地元NGOなどにもご協力いただきながら、タール火山のあるバタンガス州内の避難所にて支援活動を実施しました。

AMDAチームは、医師による診察、看護師の健康相談や歯科検診など合計526人に医療支援を実施し、さらに石鹸やオムツ、バケツなどの日用品685世帯分の物資支援も行いました。

被災者の方の中には、火山灰が降り続けている家に毎日戻り、掃除や家の用事を済ませているという方もいました。AMDAフィリピン支部の医師が診察した方の中には、火山灰の影響と思われる呼吸器疾患が見られる方が



診察するAMDAフィリピン医師

いたり、家での作業や暑い避難所生活の中で脱水の兆候が見られる方もいて、災害が原因で体調不良を訴える方に対し、医薬品の処方などの適した対応を行うことができました。いつ家に帰れるか分からない状況の中で、「支援活動を行うことで、避難者の方々の希望に繋がれば嬉しい」とAMDAチームの1人は話しました。

(プロジェクトオフィサー 神倉 裕太郎)

バングラデシュ北部寒波

バングラデシュには毎年決まった時期に洪水やサイクロンが襲ってきてはしばしば国土に計り知れない大破壊をもたらしますが、近年頻発する自然災害に地球の気候変動による「寒波」という新しい種類の災害が加わっています。

2019年11月よりバングラデシュ北部で続く寒波に対し、現地NGO・AFAD(アフアッド)の要請で、物資支援としてAMDAバングラデシュを通じてブランケットの提供を行いました。実際の配布にはAFADスタッフとともにAMDAバングラデシュスタッフもクリグラム入りし、1月31日～2月3日までの日程で活動しました。



ブランケットの受け渡し

(プロジェクトオフィサー 橋本 千明)

新型コロナウイルス感染症

AMDAは、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染症の影響に対する緊急支援活動として中国にて駐在を続けている日本人を対象にマスクを提供しました。

2月上旬にAMDAネパール支部より中国に向け発送された16,000枚のマスクは、約3週間後の2月26日、無事に中国側の窓口である北京日本倶楽部に到着。

その後、同会は、北京の医療機関、日本人学校、北京日本倶楽部会員の希望者、そして天津日本人会にマスクの配布を行いました。なお、確実な郵送が困難となりましたが岡山商工会議所、AMDAカンボジア支部、ベトナムの個人現地協力者からもマスク提供等のご協力を得られました。(プロジェクトオフィサー 橋本 千明)



北京日本倶楽部より中日友好医院へマスクのお渡し

岡山県商工会議所連合会と AMDA が大規模災害時の緊急医療支援活動に関する連携協定

岡山県商工会議所連合会（松田久会長）と AMDA（菅波茂理事長）は3月5日、岡山市北区厚生町の岡山商工会議所で「大規模災害時の緊急医療支援活動に関する連携協定」を締結しました。

岡山県内では世界各地に営業・生産拠点を置く企業も多く、社会貢献を使命とする「ミッション産業」と医療部門が「相互扶助」のネットワークを今回の連携協定に伴って形成。災害時に迅速で有効な緊急医療体制を整備する「世界災害医療プラットフォーム」の構築に向けた第一歩を踏み出したこととなります。

連携協定によると、AMDA は駐在員や家族に医療支援活動の情報、被災対象国の安全についての情報を提供。岡山県商工会議所連合会は現地の被災状況や交通情報、支援物資の提供、宿泊場所、通信手段、資金面などの支



松田久会長（左）と

援をするとの内容の8項目からなっています。

締結式には、岡山県医師会、ジェットロ、マスコミ関係者ら約40人が出席。松田会長と菅波理事長が協定書に署名した後、がっちりと握手を交わしました。続いて、松山正春岡山県医師会会長、奥井浩平岡山貿易情報センター所長、清水男総社商工会議所会頭も加わって5人

が力強く握手をしました。

松田会長と菅波理事長によると、国連国際防災戦略事務局が2015年に開いた国連防災世界会議で、「仙台防災枠組」として復興計画に基づいた緊急救援の必要性の方針を打ち出しており、このためには産業界の連携が不可欠。一方で、地下マグマ数値が0地域である「岡山」を有事の際の国内外の支援拠点として進めていきたいとしています。（広報担当参与 今井 康人）

インドで大規模災害時の連携協定

AMDA はインドにある2つの団体と大規模災害に備えた協力関係を構築しました。2019年12月26日には、高山での災害医療支援などを行っているシックスigma・ヘルスケア（Six Sigma Healthcare）



セワバラティの事務局長と（右）

と、27日には、インド全土に展開し、災害時の緊急支援を含む社会貢献活動を行っているセワバラティ（Sewa Bharati）と協力協定を締結しました。

加えて、インドまたは日本で災害が起きた際には、連絡を取り合い、災害対応において協力していくことも確認しました。（GPSP 推進戦略局担当部長 岩尾 智子）

インドネシアの14大学医学部と連携協定



インドネシア14大学協力協定

12月4日、AMDA は、インドネシアのスラウェシ島、マルク諸島、パプアにあるインドネシア医学教育協議会に属する、ハッサヌディン大学を始めとする14の大学医学部と、災害時のより充実した体制構築を図るために、AMDA 多国籍医師団への参加、人的・物的交流などの協力を目的とした協定を締結しました。

AMDA 菅波代表、AMDA インドネシア支部長のタンラ先生、同協議会の地域代表と大学の医学部長がそれぞれの協定書に署名し、相互扶助に基づいた今後の一層の協力を誓いました。（GPSP 支援局長 難波 妙）

各国の駐日大使館を訪問

2012年より毎年、AMDA が活動する各国駐日大使館・総領事館を訪問し、活動報告をしています。今年は10の国と地域（2月末現在）の大使館及び関係機関を訪れました。特に、昨年災害が多かったフィリピンでの活動について、ホセ・カスティリョ・ラウレル五世駐日フィリピン共和国特命全権大使に直接ご報告する機会をいただきました。

今年1月12日に起きた、タール火山噴火で被災したバタンガス州の元州知事であるラウレル大使に AMDA からお見舞いを申し上げたところ、タール火山の噴火はフィリピン国内の他の火山より穏やかであり、火山活動も一旦落ち着きを見せているので大丈夫だと、活動に対するお礼の言葉とともに大使からお話がありました。

（GPSP 推進戦略局担当部長 岩尾 智子）



ホセ・カスティリョ・ラウレル五世駐日フィリピン共和国特命全権大使（中央）

朝日塾幼稚園から寄付を頂きました



園児3人から寄付を手渡される

朝日塾幼稚園（岡山市南区万倍）から2020年2月26日、寄付を頂きました。

この日、教師の引率で園児3人がAMDA本部を訪れ、「よろしくお祈いします」と元気な声を出し、AMDA職員に寄付金を手渡しました。

同幼稚園からは「世界中の子どもたちがみんな幸せになれることを願っています。そのお手伝いができる機会をいただき、感謝とともに嬉しく思います」とのメッセージを頂きました。

同幼稚園ではお金を大切にする園児教育の一環として、園内に植えたみかんのバザーの売り上げと、正月のお年玉の一部を持ち寄って「困っている人のために」と2013年から毎年、AMDAに寄付を頂いています。

（広報担当参与 今井 康人）

第63回岡山県洋蘭展でチャリティーコーナー



洋蘭展のAMDAブース

「咲かせよう美しい花、みんなの夢～AMDAとともに～」をテーマにした岡山県洋蘭協会（藤広治会長、会員40人）主催の「第63回洋蘭展」が2020年1月31日から3日間、総社市の農マル園芸で開かれ、AMDAは県洋蘭協会のご厚意でチャリティーコーナーを開設しました。

今年で24回目となります。

会場は会員の方々の力作約150点が並び、洋蘭特有の甘い香りが漂い、華やかな雰囲気。

洋蘭の栽培相談教室をはじめ、世界の珍しいランや肥料、栽培用品などの園芸資材も並び、来場者は一足早い春の訪れを感じていました。

会員の方々から提供された洋蘭の即売チャリティーコーナーも設けられ、売上金は毎年、AMDAに寄付して頂いています。（広報担当参与 今井 康人）

“ふるさとの味覚”全国の特産地の調味料を「こども食堂」に配布

岡山ハーモニーライオンズクラブ（岡山市北区駅前町、尾崎玲子会長）より贈呈を受けた全国の特産調味料について、産官学民でつくる「AMDAこども食堂支援プラットフォーム」は2020年3月5日、岡山県内のこども食堂18団体に配りました。

調味料は、味噌三昧（長野県千曲市）と日高根昆布だし（北海道えりも町）、富勇醸造富士醤油（岩手県釜石市）、八十八屋こめ油（三重県桑名市）、ゆずの村ポン酢醤油（高知県馬路村）の5種類です。

こども食堂のスタッフは「調味料はボランティアの寄付や子どもの参加費、カンパ、バザーなどの収益金で購

入していた。大変ありがたい」と大喜びでした。

同クラブは、各自治体の「ふるさと納税」を活用して返礼品を受け取り、こども食堂への配布をAMDAに委託して頂きました。AMDAは感謝状を同クラブに贈り、調味料の希望団体を募っていました。

同クラブのこども食堂への寄付は2019年1月の津軽りんごに次いで2度目です。（広報担当参与 今井 康人）



全国の特産地の調味料を各こども食堂に配布

あの日から 9 年 東日本復興支援事業 AMDA 大槌健康サポートセンター

AMDA 大槌健康サポートセンター長 佐々木 賀奈子

岩手県大槌町にある健康サポートセンターでは、木工教室、さをり教室、郷土料理教室を開催継続中です。

気持ちがしずみがちな時、物作りして皆さんと一緒に各教室事業に参加して、笑ったり泣いたり、話しているうちに心穏やかになれます。人が集える、寄り添える場所が、有る事が当たり前でしたのに、あの日 2011 年 3 月 11 日から激変しました。9 年という長い時を

経て、各教室でお互いにアイデアを出し合って作品を制作したり、時間が経つのを忘れるほど夢中に作品を作っています。作品を部屋に飾ったり、身につけたり、大切な方への贈り物、新しい家への贈り物などを制作しています。

震災後 4 回目のコミュ



大槌木工教室



大槌健サボさをり織

ニティ作りの今 (1 回目避難所、2 回目仮設住宅、3 回目復興住宅、自宅再建、4 回目復興住宅家賃値上げで引越越し) 各教室は物作りだけでなく、コミュニティ作りの場にもなっております。今後も大槌の皆様の想いを伝え続け、健康サポートセンターを継続していきたいと思ひます。

AMDA ピースクリニックの挑戦

* 母子保健活動 *

インド・ビハール州ブダガヤで行っている妊産婦ケアを中心とした母子保健事業は、2014 年に地域のニーズに対応するため事業転換を行ってから、現在に至ります。今回は、AMDA ピースクリニック (APC) を利用する妊婦であるプジャさんにお話を伺いました。

AMDA こんにちは、プジャさん。今、妊娠何カ月目ですか？

プジャさん 10 カ月目で、すでに予定日を過ぎています。

AMDA 出産が近いですね。

プジャさん 2 人目の出産であり、気になる症状もないので心配していません。1 人目の時は、浮腫の発生やヘモグロビンの数値の低下もありました。しかし、今回は APC のスタッフによる指導で食生活に気を配ったこともあり、特に問題ありませんでした。

AMDA どのようにして APC を知りましたか？

プジャさん 義理の姉から紹介してもらいました。他のクリニックでは、妊婦健診やサプリメントなどの医薬品提供を受けられなかったのです。

AMDA APC に来て、何か変わりましたか？

プジャさん 1 回 25 ルピー (約 36 円) の登録費で、

インド・ビハール州ブダガヤ ㊦



APC スタッフから質問を受けるプジャさん

妊婦健診を定期的に受けられようになりました。必要な医薬品をもらえます。妊婦健診を受けなければ、不安ですし、リスクも大きいと思ひます。他にも、ゲンゼ様提供のショーツもいただきました。

AMDA この取り組みは多くの支援者の方々に支えられて、成り立っています。支援者へのメッセージをお願いします。

プジャさん ご支援ありがとうございます。定期的な妊婦健診の機会や医薬品の提供に加え、週 1 回 APC スタッフによる健康教育も開催されます。私の友達や同僚など周りの方で妊娠が判った場合には APC をお薦めします。

(インド担当 岩尾 智子)